

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2692700020		
法人名	医療法人社団 外松医院		
事業所名	医療法人社団 外松医院 ハーモニーグループホーム		
所在地	京都府舞鶴市竹屋 98-1		
自己評価作成日	平成24年3月1日	評価結果市町村受理日	平成24年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2692700020&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2692700020&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年4月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

処遇方針、基本理念にもあげているように、「質の高い心のある介護」「和」を最も大切にしながら、職員全員がお年寄りに対して優しく、大切にしている事が自慢です。それは過保護ではなく、本人の力を活かした支援出来る様に日々努力出来ている事は今後も継続していきたいと思っている。そして本人の思いを大切に理解し自由で楽しみ溢れる笑顔の多い施設を目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

古い街並みにある当該事業所では、利用者がその人らしく生きることや、人のつながりと和を大切に助け合い、地域を心でつなぐ施設を目指す理念に掲げ、日々の支援を展開しています。買い物に近くの商店に出かけ、地域の祭りや地藏盆、防災訓練等に参加しています。運営推進会議には地域を代表する方々の参加を得て、地域に向けた発信を心がけ意見交換がなされ、シルバー110番の家に位置付けたり、高齢者と薬についての講演会を利用者家族、地域に向け企画しています。近隣から花が届いたり、小学校の課外授業の受け入れを行い終了後も子どもたちが訪ねてくるなど交流が継続しています。様々な地域との関わりは利用者の喜びであり、職員が積極的な提案が出せるよう会議での発表の機会を作ったり連絡帳を活用するなど職員の思いが形になるよう努めています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時にスタッフ全員で基本理念の唱和を実施、常に意識を促している。	事業所設立時に職員で検討して作成した理念は、その人らしく生きることや、和みをキーワードとして作成されています。職員会議や、申し送り、運営推進会議など事あるごとに理念に沿っているか確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地藏盆やお祭りへの参加、清掃行事、合同災害訓練にも参加させて頂いている。	天気が良ければ散歩や買い物に出かけ、近隣の方々と挨拶を交わし、花が届け時には活かさるなど地域の暖かな関わりがあります。自治会行事の地藏盆や祭りに出かけ、事業所の行事には地域の方々と誘い交流を楽しんでいます。小学校の課外授業の受け入れがあり、その後にも児童の訪問があるなど交流が継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の小学校から5年生を受入福祉学習会の実施、		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度会議を開き、老人会長、町内会長、民生委員、家族会、市の介護保険課より参加頂き意見を伺いながら現状報告、予定報告させて頂き、施設行事、防災訓練にも参加頂いている。	地域を代表する町会、老人会、民生委員、家族代表や利用者、市職員等多くの出席のもとに運営推進会議は行われています。活発な意見交換や情報のやり取りがあり、投薬や認知症についての講演を地域の方々も巻き込んで行い、ホーム内の問題を発展的な形で発信しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会を通じ定期的に市担当者と連絡、報告が行っている。	市職員の運営推進会議や地域密着型交流会などへの出席があり、ホームの理解がなされています。日常的にも、電話のやり取りや窓口に出かけるなど、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束しない方向であり、勉強会や研修により職員の理解を深めている。	身体拘束の研修は、担当者が情報を収集して行われたり、毎月の会議や申し送り時に様々な事例を基に話し合っています。家族から要請のある繋ぎ服の着用等に対しても拘束を行わない姿勢の確認と検討を行っています。玄関はタッチ式の自動扉を設置していますが、利用者が外に出たい時には付き添うなど支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などの機会を持ち、防止につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明を十分に行い、入居後も面会のたびお話を頂き、疑問点などないか伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の会長を運営推進会議にも参加して頂き、遠慮なく意見を言ってもらえる様に促している。	家族会や面会時、遠方の家族には電話で家族から直接意見を聞くようにしています。家族会代表の運営推進会議への出席があり意見を聞く機会にもなっています。認知度の進行について家族からの不安の声を受けて、支援の振り返りを行うなど職員間で検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談の機会を設け意見を聞く様にしてはいる。	会議では、連絡ノートで課題を見つけたり事前に議題を知らせるなど意見が出やすいように努めています。また担当者制の中で帰宅願望のある利用者に対する個別対応等の提案発言の機会をつくり、検討され運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者の報告や、職員個々の状況を把握しながら頑張っている職員に対し給与や賞与に反映しようと努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲ある職員に対しての研修への参加は積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設交流や、他施設との交換研修など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り本人の思いや訴え希望に対して耳を傾け、少しでも安心して生活出来る様努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の間は話をする機会を多く作り、毎月の連絡表も細かな報告をさせて頂き、対応の方法など相談させて頂きながら家族の意見を多く聞ける様に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を使用しながら、出来る限りの情報を収集し、その人らしさ、その人が力を発揮出来る事をまず考えて行く努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的な方針として一緒に生活していき、喜怒哀楽をともにしていく努力をし、処遇方針にも挙げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族との対話を持ち職員全体で家族との関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしている色々な方との関わりを持ちながら、行きたい所へお連れしたり、来て頂いたりしながら、施設に入居されても継続的な関わりが持てる支援に努めている。	友人や近隣の知人の訪問があり、かつて交流のあった方への手紙の投函等、関わりが継続出来るよう支援を行っています。ホームの周辺がかつての商店街で、利用者にとっては馴染の場所でもあり、散歩をしながら昔話が話されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中で合う合わないもありますが、それぞれの関係、性格を把握しながら、円滑な人間関係が保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人にとっての思いを常に考えて支援出来る様に勉強会にも取り入れながら、常にその人の思いを気づく努力をしている。	入居以前の生活などを家族に聞き、会話の中からも思いや意向を把握し情報を積み重ねています。家族の来訪時にも意見や意向の把握に努め、毎月職員間で利用者の課題や悩みを話し合い、利用者の気持ちになって思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時からの情報収集に加え入居後も得た情報を職員全体で把握できるように毎月の職員会議でケアカンファレンスを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り前のミニカンファレンスにてその日の打ち合わせをしながら、情報を常に共有し常に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議でのケアカンファレンスや常日頃から意見を出し合いケアプランに結びつけている。	利用者や家族の意向を基にアセスメントし、会議で検討の上介護計画を作成しています。日々モニタリングを行い3ヶ月ごとに見直しをしています。見直しの際には全職員で計画の実施状況を検討し、状況に応じた計画になるよう努めています。必要に応じて医師や看護師の意見を反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに対しての記録内容になっている。その中で気づきや工夫などをもとにケアプランの見直しに繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人に柔軟な対応を心掛けている、施設入所中の重度の障害を持つ娘さんが自宅に戻られた時には家族水入らずの時間を作って頂ける様に自宅への送迎をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用については活発ではないが、地域住民との関わりを持つ努力はしながら、徘徊時の声かけはお願いしてある、		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人の希望通り今までの主治医で継続して頂き、定期受診の支援をさせて頂いている。	かかりつけ医は家族の意向に沿って決めて頂き、職員により受診支援も行っています。毎月一度協力医療機関の往診があり、日常的な健康管理は看護職員が中心に行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常日頃の観察から健康上の特変があればすぐに看護師に報告出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療連携室とはいつでも連絡を取り合いながら緊急時の受入はいままでも問題なく対応して頂いている。退院時も速やかに受入をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は常にご家族さんと密に連絡を取り合いながら、ご利用者にとって一番良い方法を選択出来る様に努めている。	事業所の看取り指針を契約時に説明し、状況の変化があれば再度家族を囲んで話し合っています。利用者が重度化した際には、かかりつけ医や家族と密に連絡を取り、家族の意向を確認しつつ出来ることや出来ない事を確認し対応しています。職員の夜勤体制を検討し、人員を増やすことで職員の負担にならないように配慮するなどしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に関するマニュアルの設置。勉強会又救急隊よりの緊急時の研修も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練等地域の方にも参加して頂いている。地域における合同避難訓練にも入居者と参加している。	消防署の立ち会いのもとに年2回昼夜想定での訓練や、事業所独自で隣接する河川の氾濫時の避難訓練も行っています。運営推進会議を通じて地域の方々の参加を得たり地域の防災訓練にも利用者と共に参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	処遇方針を毎日唱和し人格を尊重しプライバシーの保護に努めている。	接遇研修を勉強会に組み入れ、個人情報保護の大切さや、一人ひとりの尊重などを周知し、職員が適切な対応が出来るように努めています。利用者の話をよく聞くことや、医師に添った支援の基本としています。不適切な言動等があれば互いに話し合ったり、管理者が声をかけ注意を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらの意見を押し付ける様な事はせず、常に希望を聞く様にしている。また意思決定出来ない方に対しても声かけしながら対応させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者の立場に立ち、本人の思いを聞きいれ相談しながら決める様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買物に出かけ服をご自分の好みで選ばれたり、清潔にも気を付け常にその方の身だしなみや、おしゃれが出来る様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物から一緒に出かけ季節感を感じ食材に取り入れている。片付けなども状況に合わせてお願いしている。	利用者の好みや季節感を大切に献立をたて、近隣の商店に買い物に出掛けています。頂き物や畑で出来た季節の野菜なども食卓をにぎわし、利用者は刻んだり炒めたり、テーブルを拭き配下膳等出来る事に携わり、力を発揮しています。2～3ヶ月に一度は近隣で外食に出かけ、誕生日や行事時には好みの物を作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量をチェック表に記入し常に把握している。その方の能力に応じお粥やおにぎりなど対応させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方については毎日眠前のポリデント洗浄実施。毎食後の口腔ケアの実施をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しその方の排泄パターンの把握に努めている。オムツを減らす努力が必要と考えているが、加齢に伴う尿失禁は立位をとただけでも尿漏れがみられ、オムツの使用はやむ得ない事を感じている。	紙パンツやパッドを利用者に合わせ、利用者毎の排泄パターンを把握して失敗を無くすように努めています。現在おむつの利用者はいませんが、トイレでの排泄を引き続き心がけていきたいと考えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全体的に便秘傾向が多く、水分補給、食事内容を考慮したり摂取量の把握、散歩や身体を動かす事を勧めながら、時には下剤も服用しながら排便管理させて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日置きと大まかには決まっていますが、本人のタイミングに合わせて強制しないように心がけている。	日々入浴の準備をし、利用者には隔日に入浴支援を行うようにしています。就寝前入浴の希望に応じ、毎日の要望も可能で、利用者の意向に沿って支援しています。拒否傾向にある方には、無理強いせず、時間をずらしたり、清拭や足湯などで臨機応変な対応を心がけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には自宅で使っておられた家具を置かれたり、安心したスペースで休んで頂ける様にしており、本人の時間を大切にしながら引きこもりにならない様見守りさせて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服状態がわかるように、お薬リストを作成し、変更があった場合は、申し送りノートに必ず記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のしたい事、嗜好など常に会話の中から見つける様努力し実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅や美容院など本人、家族の希望があれば可能な限り対応させて頂いています。	天気の良い日には散歩や買い物、時には海や花を求めて出かけています。手作り弁当持参で外出することもあり、花見や紅葉狩り、夏の花火大会、希望により吉本新喜劇を利用者と見に行くなど楽しみな外出を実現しています。今後も家族にも声を掛け積極的に出かけて行く意向です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持っておられる方は現在1人ですが、買物の際同じものを選ばれたり、大量に購入されることがある為見守りをしながら、可能な限りご自分で使えるようにして頂きたいと思っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室には電話線が引いてあり、希望があれば設置して頂いている、現在1名の方が電話を引いて自由に掛けておられる。手紙も希望時はすぐに対応させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常にせいけつに心がけ、悪臭や汚れがないように努力している。裏庭には季節の花や野菜を植え玄関にも季節の花を飾り季節感を感じて頂くよう心がけている。	畑で育てたものや近隣からも届いた季節の花が玄関に活けられています。清潔に心がけ、温度や湿度の管理も含め利用者に声をかけ、一緒に掃除をしたり空気の入替えをしています。リビングは行事の写真や書道など利用者の作品が飾られ、台所には低い位置にカウンターの設置があり、料理の手伝いや調理中の職員との会話が弾むよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どこにでも座ってくつろげるように配慮している。本人の希望される所を気づく努力をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族と相談し好みに合わせた必要なものを入れて頂くようにしている。	ご自身で模様替えをされる利用者が居られたり、かつて書かれた日本画や、思い出のある絵が飾られていたり、利用者の好みに居室が整備されています。ほとんどの利用者がベッドを利用されていますが、希望によって畳での生活も可能で、炬燵を置いておられる方もあるなど自由な設定がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ワンフロアと複雑な作りではなく全館バリアフリー、必要な個所には手摺の設置等安全面には留意している。生活動作全般に出来る事はして頂きながら出来ない部分への声かけ、介助が基本と常に認識している。		